

第24回県連看護介護活動交流集会(11/23)を開催しました!

11月23日、香川民医連 第24回看護介護活動交流集会在『真の要求をかたちにする看護介護の力を強めよう!』のテーマで21演題の発表、看護介護職員123名の参加で開催されました。協同エリアからは若年性の高次脳機能障害「見えない障害」に対しての退院支援や独居認知症利用者へのデイケアでの働きかけ、コミュニケーションツールが違う外国人との関わり等、7演題発表しました。退院したら終わりではなく、この先もずっと続く患者家族の人生に思いを馳せて支援をつないでいくことが大切だと感じました。発表後は、緊張しきりだった発表者の方々がとっても晴れ晴れとした表情となり学術担当者としてもとてもうれしい限りでした。

また、記念講演では昨年の認知行動療法で大好評を博した鳥取大学大学院医学系研究科の竹田伸也先生による「認知症ケアに活かす行動療法」として、行動



レンズを通して「きっかけ」「行動」「結果」をアセスメントして関わるというプロセスを学びました。認知症の方へは「困った事があつたら何でも言って下さい。」よりも「何がしたいですか。」の言葉かけを求めてくださいとお話されました。今年も参加された皆様の協力で会を盛況に終えることができ本当に良かったです。

(高松協同病院管理室 福家妙子)



リレー投稿

この間の政治の流れを見ると、非常に言葉の軽さが気になります。その場の言い逃れや言い換えで議論が深められず、同じようなことが繰り返されている印象を受けます。実際ニュースでも「議論深まらず」「国会空転」のような見出しがつけられ、さらに「野党もふがいない」みたいな論調をあわせて伝えています。(しかし、質問にまともに答えないので、同じ質問を繰り返さざる得ないことを考えると、その指摘はどうかとは思いますが。)それでもなし崩し的に、物事がどんどんと決まってしまう。

また、自身の不利になるような資料は廃棄され、議事録も加筆修正されと、本当に好き放題です。この間の外交問題に関しても、同じく自身のメンツのためなのか、両極端な対応を続けているように見えます。その流れに何となく世の中全体が流されている、もしくは慣れていっているようにも感じ、怖くなる今日この頃です。

言葉が持つ責任の重さを、安直に軽々しく扱い、いろいろなことを数の力で好き勝手に進めている今の政権が、国として一番大きな責任を持つ言葉の集合体である憲法を変えようとしていることが大きな問題であり、恐怖を感じています。

しかし、恐怖だけ感じているわけにはいきません。先日、新聞一面でも取り上げられていまし

たが、現在、厚生労働省は2018年度の生活保護基準引き下げに向けて、生活保護基準部会での協議を行っています。生活保護基準の引き下げは、生活保護受給者と低所得者層の生活実態を全く無視したものであり、あらゆる社会保障制度の基盤を低下させることにもつながり、まさに国の責任放棄ともいえる動きです。自分の仕事であるソーシャルワークのグローバル定義の前半部分には、「ソーシャルワークは、社会変革と社会開発、社会的結束、および人々のエンパワメントと解放を促進する、実践に基づいた専門職であり、学問である。社会正義、人権、集団的責任、および多様性尊重の諸原理は、ソーシャルワークの中核をなす。(以下略)」と書かれています。まずは声なき声に耳を傾け、社会正義、人権、集団的責任、多様性を認め合いながら、現在の社会福祉が後退ではなく発展するように、ソーシャルワーカーとして、粘り強く働きかけていかなければいけないと感じています。

(高松平和病院連携相談室 服部啓吾)

安倍 改憲に

物申す



一言